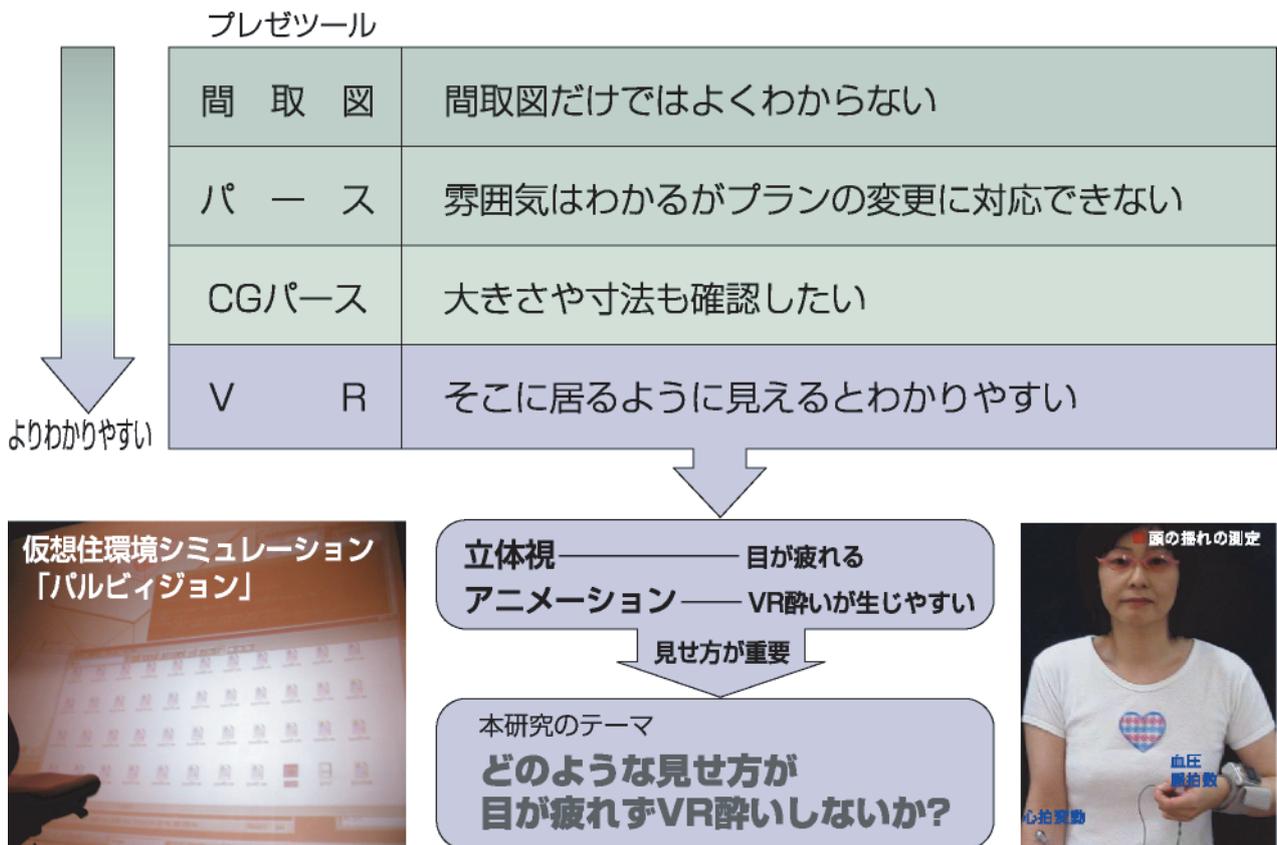


# VRを用いた住空間提示・評価に関する研究

大山 能永・小野 浩史・森川 泰成・吉沢 望・佐野 奈緒子・平手 小太郎

## A study on the presentation and evaluation of residential space with VR technique

Yoshie Oyama, Koji Ono, Yasushige Morikawa, Nozomu Yoshizawa, Naako Sano and Kotaroh Hirate



### 研究の目的

VR技術の向上および普及により、建築空間の事前検討が可能になっています。より臨場感、没入感を得るための動画提示は、体験者に視覚疲労やVR酔いと呼ばれる乗り物酔いのような不快感を与えることがあります。本研究は、視覚疲労やVR酔いしにくい提示のための研究です。

### 技術の説明

本研究では体験者への負担を疲労感の自己申告以外に、血圧や脈拍数の変化、心拍変動でも測定しています。立体/非立体、CG/ビデオなど提示画像についても検討しています。

### 主な結論

実験結果から、乗り物酔いやすさではなく、体験者の視力が視覚疲労やVR酔いに影響することと、提示時の口頭説明やガム咀嚼がVR酔い低減に有効であること、さらに、心拍変動（自律神経の状態）が生体への影響の指標としての可能性が示されました。